

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-28

学校名・団体名	南会津町立南郷小学校
HPアドレス	http://www.minamiaizu.gr.fks.ed.jp/?page_id=164
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	『川の表情、水の健康、 ふるさとの自然を誇る心を！』
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>自然の恵みと防災の両面からふるさと南郷の特性を深く考え、誇りに思う心情を育み地域で生きる力を高めることを目的とする。</p> <p>本校は、福島県南会津町にあるへき地校である。平成24年度に学校統合を、平成26年度に大規模耐震工事に伴う校舎移転をと、震災以後も度々、学ぶ環境の変化に遭遇してきた。このため、保護者からは、南郷小学校や南郷地域が、児童にとって良さを実感し誇れる心の居場所になってほしい、そのための学習活動を重視してほしいとの思いが数多く寄せられる。本校の教育目標「ひびき合い、ともに高まる南郷の子」には、地域の人、自然、文化とひびき合う子どもを育もうという願いが込められている。このような経緯から、本校では、地域人材の協力を得て多様な体験活動を教科等の学びにつなぐことを重視している。</p> <p>昨年9月10日には豪雨に伴う災害に見舞われ、人的被害は無かったものの川の氾濫や生活道路の長期遮断など、地域全体で自然の驚異をまざまざと見せつけられる経験をした。今年度、本校では、児童が自分の考えを持ち表現する力を高めることに重点を置き、共同研究を進めている。水に関わる自然を知る体験活動を学習と関連づけることで、南郷地域の自然の恵みの側面と、災害の驚異から身を守る防災の側面の両面から、地域の特性をより深く考え、地域を誇りに思う心情を育むとともに、地域で生きる力を高めることを目指した。</p>	

1 活動時期と内容

総合的な学習と教科、特別活動をつないで、地域の水と川に関わる体験活動を、自然の恵みの側面と災害の脅威から身を守る防災の側面の両面からの学びに活かすべく、以下のように展開した。

活動時期	水と川について学ぶ活動				
	自然の恵みの側面から		防災の側面から		
6月 7月	尾瀬湿原散策 6/21 3・4年生 	漁村交流体験 6/22 5年生 	着衣泳 流水体験 7/8 全校生 		
9月 10月	川の上流・中流調査 9/7 5年生 	地元酒蔵訪問 10/5 4年生 	地層と断層の学習 10/14 6年生 	地元の災害学習 9/7 5年生 	雨と放射線の学習 9/20 6年生 
11月 12月 1月	川の利活用講話 11/18 5年生 	地元温泉調べ 11/24 4年生 	地域の水質調査 12/8 6年生 温泉水の比較実験 (写真無し)	冬の川原探検 1/18 3~6年生 	
随時	考えを深め発信する活動				
	町の未来を考える 7/15 3年生 	町の未来をプレゼン 10/28 6年生 	WEBを通じた発信 随時 児童会放送委 	テレビ会議による交流 1/26, 2/1 5年生、3/1 6年生 	

2 成果や子どもたちへの効果

※()内数値はアンケート調査の参考データ

- 資源利用の視点と、環境保護の視点から、地域をより深く考える機会にできた。
南郷地域に沿って流れる伊南川は、夏、鮎釣り客で賑わう。また、良質な水資源を利用した温泉施設や酒造会社は、地域産業の一翼を担っている。子ども達はこれまでもこれら産業資源について学習してきたが、今年度は助成金を活用し、特に、観光・産業利用の視点と環境保護の双方の視点から、専門的に携わる方々を講師に学び、地域の川の状況を現地調べ、持続的な地域の財産としていくことについて話し合いより深く考える機会を持つことができた。(「子どもは地域の人や自然と関わる体験の機会を得ている」…保護者肯定97%)
- 自然の恵みと防災が併存する地域で暮らすことを、具体的に学ぶ機会にできた。
「平成27年9月関東・東北豪雨」により南郷地域は被害を受け、現在も復旧に至らない場所がある。子ども達はこれまでも、地理的特徴に由来する自然災害から身を守ることを学んできている。今年度は助成金を活用し、特に、地域の自然環境の特徴や災害が発生する仕組みを詳しく学び、実験や実習を通して防災の知識と技能を身に付け、この地域で暮らしていくことについて具体的に考える機会を持つことができた。(「学校は、子どもの事故防止やアレルギーへの対応、非常時の対策など、安全・安心の実現に努めている」…保護者肯定99%)
- 郷土に向き合い、適切に表現しようとする心情を高めることができた。
郷土を単に美化するだけでなく、自然の豊かさや災害のリスクが表裏であることに向き合い、「うまく付き合っていく」という発想で実生活に活かそうとする心情を高める一助となった。特に、町の未来像を考えたり遠隔地域の小学生と交流したりすることで、学ぶ目的を鮮明にしたり他者の視点を心得て考えを深めたりする貴重な学びの機会にできた。また、本校では全学年に放射線教育を各2時間位置づけ、未だ収束しない原子力発電所事故による影響について学習している。自然災害と同列ではないが、郷土の現実の1つとして自分の言葉で語る知識と表現力をしっかりと身に付けさせられるよう、指導改善を重ねている。(「南郷地域は自慢できる町だと思う」…児童肯定96%、「授業のとき自分の考えを持つことができる」…「いつも」と回答した児童63%)